

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	恵光園グループホームさくらの里
（ユニット名）	ふれんど
所在地 （県・市町村名）	垂水市本城217
記入者名 （管理者）	原 口 敏 夫
記入日	平成 21 年 10 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	ドライブ・買い物、外食等計画を立て実行している。又、家族との交流等呼びかけ、協力を得ている。定期的に家族と昼食を食べに外食される方もいるし、職員とも出かけて楽しまれている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	スタッフ会時、話し合いの場を作って、それぞれの意見を出し合って、理念の実践が出来る様努力しているし、又、実行できている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	生活リハビリや作業療法等、毎日の生活の中に取り入れてご家族にも訓練の方法等、報告や協力してもらっている。(料理の手伝いや魚の三枚下ろし、もやしの根つき、洗濯物干し・取り入れ・たたみ等。)
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	6年ぶりに街頭踊りに参加し、地域との交流を深めることが出来た。買い物等に行くと地域の方と会ったり、相手から声をかけて下さり、又、面会にも来て下さったり、交流のきっかけも出来ている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	男女河原祭りや文化祭等、見に行きたいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人全体ではいろんな機会を持ち合わせているが、要請もなく取り組んでいない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価が活かされ、それぞれ意識を持って仕事に取り組んでいるのでサービスの質の向上につながっているし、1人ひとりの能力が高まっている。	○	サービスの見直しになり、常に緊張して改善に取り組んでいる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施。家族からの意見や行政の方々の助言をスタッフ会で伝え、改善すべきことはすぐ取り組んでいる。	○	事前に会議への参加を面会時や電話等をお願いしている。家族の思い等、聞けるので反省や又、良い評価を受けると励みにもなり元気が出る。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に1～2名の担当者の参加があるのでいろいろ話している。又、地域密着型サービス事業者集団指導もあり指導を仰いでいる。	○	意見を参考にしている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内研修や福祉関係の書籍で勉強している。実際に必要とする方は現在いらっしやらない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修でテーマとして取り上げ、勉強している。あつてはならないことなのでお互いに気をつけ注意している。	○	常に勉強会で学んだ事を意識して、虐待が起こらないように心掛けたり、職員間もそれぞれの行動や言葉遣い等気をつけ、「おやっ」と思った事はスタッフ会等、問題提起し話し合って防止している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族、利用者様がまず安心していただくことが第一と考え十分に話し合っています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃、いつも向い合って生活をしているのでなんでも話せる雰囲気でもある。又、こちらから問いかけたりもしている。又、意見が聞かれた場合、主任が中心となり本人の納得いくようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態にいつもと違いがある時はすぐ家族へ連絡している。又、金銭管理については2ヶ月に1回は必ず出納帳の確認してもらっている。職員の異動は利用者様の事を充分考慮して行っている。	○	面会時等、一緒にお茶を飲んだり、日頃の様子等細かく報告している。入居時の状態より落ち着かれ、皆さんと仲良く交流されている姿を見られ、安心され喜ばれている。認知の進行もあり、細かく報告をしているので、理解され、協力いただいている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時にこの件についても細かく説明して面会時折をみて意見、苦情の有無を尋ねている。又、ホームに入り目につく所に相談・苦情の張り紙をして相談しやすい環境づくりを心掛けている。	○	日頃より家族ともよく話をして、相談しやすい雰囲気作りに心掛けていますので、何でも家族の方が話して下さるので、こちら相談がしやすく、分かりやすいケアにつながっている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会で意見を聞いたり日頃の業務中にも聞いて、それが必要な意見であれば反映させ業務が効率的にスムーズに行くよう配慮している。	○	スタッフ会時に話し合いの場を提供して下さるので、利用者様のQOL向上に繋がる意見を出したり、問題解決の話し合いが出来る。職員の意見が反映出来ている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	法人内の協力も得られるようにして利用者様やご家族の要望に柔軟に対応出来る体勢づくりが出来ている。	○	異動がある事は良い事だと思う。人員配置が必要な時はグループホームの勤務経験者を配置して下さるので安心して働ける。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者様が戸惑うような異動はしていないし、離職もこことありません。	○	事情により異動を希望する事もあり、無難な対応をしてもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回法人内で施設内研修がありテーマを募集したり、又、法人で年間実施すべき項目については行われている。資格取得の為、(介護福祉士、ケアマネジャー)の勉強会も行われていて参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者の連絡協議会発足		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	働きやすいよう要望にはよく対応してもらい、周りの環境整備も整っていて気持ちよく仕事に取り組める体制が出来ている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	積極的にいろんなことに取り組んだり、又、コツコツと努力していること。高い意欲とその能力を発揮して計画的・機敏に働く職員には高い評価を持って報いてあげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を決定する為、見学をされるケースがたまにあり、その時は安心されるよう話を聞いているが、別に時間をとったりはしていない。	○	入居者の家族もこんな所があるのよと一緒に見学に来て下さったりするので、職員が説明やお話をよく聴くようにしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の方は悩み、不安をかかえている方が多いので、来居され機会があれば話を聞き、方向性とか施設の機能等話している。	○	相談しやすい雰囲気作りにも努めている。笑顔で傾聴している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる範囲で相談に応じている。又、法人内でいろんな事業を展開しているのが見学や説明を受けて安心されています。	○	思いを良く聴く事を大切にしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	それは日頃のスタッフの力量だと思う。その為には初めての利用者に対する対応、雰囲気作り等、訓練して戸惑いのない様サービスの提供に努めている。	○	入居当時はすぐにサービスを開始するのではなく、まず、利用者、場の雰囲気、食事等、様子を伺いながら、ある程度馴染めているか確認を行いながら、又、居宅での様子等家族からの情報を得ながらプランを作成しサービスしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	GHは特に共に生き、生活をしているという意識をしっかり持ち、生活する中で利用者様より教えてもらったり、一緒に行う等して残存機能を充分発揮してもらうよう心掛けている。	○	日頃のコミュニケーションや利用者に向き合う事を大切にしている。話を聴いたり、いろんな事を一緒に行う事で心のつながりも出て来て、又、昔のことを学んだり、お互いに支えあっている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	情報交換を密にして、利用者様・御家族・職員一体となり、その方を支えていくことを入居時より話している。	○	あまり細かく報告をされる事を望まれない家族等もあり、利用者に対する思いが家族と職員の間でズレが出てくる事もあり、対応が難しい。毎日の様子を聞く事を楽しみにして下さる家族もあり、それぞれ対応している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、利用者、スタッフ、それぞれ連携を密にすること。基本なのでその様に心掛けている。	○	信頼して下さるようになり、家庭の事情を詳しくお話して下さるようになってきた。信頼を裏切らない様、接する態度等気をつけている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、聞き取りや日頃家族や本人とのふれあいや会話の中から把握して行きたい場所、思い出の場所に行ったりしている。又、ドライブや買物時知人や親戚と逢う機会があり喜ばれている。	○	本人の思いを大切にドライブや買い物・外出・行事等に取り組んでいるので、在宅時以上に活動的に動かれ、新しい風に吹かれ、生き生き楽しまれている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	小グループなので変化や思いを把握しやすい。誰かが自分のことを思ってくれている、この人達と共に生きているのだという実感を感じてもらうこと。みんなと一緒に動いたり笑える環境づくりにも努めている。	○	それぞれの個性を大切に考え対応したり、性格も見合わせ、その日の気分にも気配りし対応している。良くお話する事で理解されると思いやりも出て来て、利用者同士の関わりがスムーズにいつている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	「なにかあったら相談してください」と言っている。又、入院、転居等の場合も行き先を把握して逢いに行く事がある。	○	特養に移られてからも時々ご家族や利用者が遊びに来て下さる。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む生活の実現と夢を叶えてあげられるように努力している。その為には本人と真から向き合うこと。	○	カンファレンス、モニタリング時に本人の思いは聞き、できるだけ望まれるように努力している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人もしくはご家族と本音で語り合い、その方を良く知ることが基本。若い時からの生活から現在に至るまでの把握に努めて、それを日々の暮らし方に生かしている。	○	ドライブや外出行事等、リラックスされ楽しまれている時を利用し、思いや馴染みの暮らし方等聴く様にしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	すべてを把握しないと関わり合いを持つ事は困難と思う。その中で認知症の人として接するのではなく個性を持った1人の人として認めてケアをさせていくのが本当だと思い行っている。	○	個々に良く様子観察を行い、連絡帳や朝の引継ぎ等を利用し、全体を把握するようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族がどのような生活や生き方を望んでいるか、又、それを叶えられるようにするのがケアプランの主旨なので機会があるたびに聞いてプランを立案している。	○	面会時はできるだけいろんな話が出る様にこちらの対応・家族の思い・昔話等、多くの話が聴けるようにしている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間中、状態の変化で実行不可能になった場合、すぐプランの見直しを行っている。	○	プラン作成時は家族の思い、本人の思い等聞いたり、状況見て判断したり、現状にあったプラン作成が出来る様にしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に始まり記録に終わるといわれる。記録の大切さを全スタッフ認識している。終目の記録・生活記録諾々、しっかり記録してそれがケアプランや日頃の個々の生活に活かされていると思う。	○	記録する事は大切だと思うので、反省や又、見直し時等、記録に残っていると確認が出来るので、しっかり記録するように努力している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	GHとしては開設6年ですが、法人としては34年の経験と機能を持ち合わせているので、いろんな面で活用され利用者様にもこのことが反映されている。	○	法人として34年の経験はGHにとっても力強く、いろんな面で楽しみや喜びを得る機会が多い。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に地域代表、、又、派出所、消防の方々の参加をもらい、GHの現状や取り組みを話し、協力もお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性があれば行って行きます。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行っていない。今まで必要性がなかった。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ入居前のかかりつけ医に見てもらっている。なにか心身共に変化が見られたらまずご家族へ連絡。ご家族の望まれるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	症状により心療内科、精神科の受診を行っている。	○	利用者の状態変化時はすぐに病院受診を利用して相談・指導を受けている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	病院との連携が報われているのでなにかあれば対応してもらっている。	○	すぐに特養より看護職員がかけつけて下さり、緊急処置や受診の手配等の指導もして下さったり、日頃より交流もあり、利用者様の様子も知っていて下さるので安心。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時は機会あるたびに面会し、心身の状況を把握し、本人・家族の方々が不安なよう努めている。	○	面会時、出来るだけ状態を看護師に聞くよう心掛けている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より家族の意向は聞いている。又、段階を得て家族・本人の納得のいくよう話している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度、終末期になるとどうしても医療とのかかわりあいが出てくる。これも家族の意向で積極的医療を望まれなければ、日々の生活を重視し本人が苦痛なく安楽に過ごしていただくよう支援している。病気にもよる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族との話し合いはあたりまえのことだととらえているし、実施している。現実の場合、本人の認知の状況ではほとんどが家族の意見・意向が優先されている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	他の利用者様に(わからないように)プライドを傷つけない様気配りをしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○	表情に出たり、態度に出て来るので、日頃より様子観察を行い、不安や不満等に出来るだけ早く気付き対応している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	本人がこれをしたい等訴えを優先して、その日の状況に合わせて対応している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	毎日、整容の時間を午前中行って、男子は髭剃り、女性は外出時は薄化粧して差し上げられる様に配慮している。本人と相談し、洋服も望まれる物を着て頂いている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	○	自力摂取できない方を毎日繰り返し教えていく事で食べる事を待ち遠しくなり、食欲が出て、自分で食べられる様になってもらう事。少しずつだが、結果が出ている。園庭昼食、郷土料理等も楽しまれている。献立は管理栄養士に見て頂き、指導コメントも頂いている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○	ご家族が養命酒を昔から飲まれているということで、買って持ってきてくださり、就寝前に飲んで休まれる方もいる。男性はお酒を昔は好きだったが、今はあまり飲みたいと言われない。薬との飲み合わせもあり、禁止の方もいらっしゃる。おやつ等買い物行事で職員と一緒に好きな物を買って来て、他の利用者様に差し上げたり、頂いたりしていらっやいます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的に声かけしたり、様子観察を行いながらトイレ誘導している。排便コントロール出来た事で問題行動が解決したり、落ち着いて来られる事もある。	○	毎日、排泄・排尿チェックを行う。水分補給、食事量のチェックを行う。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日が火・木・土と一応決まっているが、都合により変更になったりする事もある。清潔に過ごして頂ける様、入浴のお誘いにも気を使って声かけしている。拒否時は無理強いせず、次の入浴の機会を待つ。	○	時々、音楽をかけたり、雰囲気明るくしている。今後は入浴剤等、数種類準備して温泉気分を味わって頂ける様にしたいと思っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は適度な運動や食後昼寝は30分位と決め出来るだけダラダラ眠らないように園庭散歩を利用して覚醒を促している。	○	午前・午後の園庭散歩 本人が休息したい時はソファで居眠りされている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族より昔の事を聞いたり、楽しみ事や趣味等、話題を集め、お話したり、行ったりしている。毎月のドライブも気分転換になり、帰宅時はありがとう、又、連れて行ってねと期待されている。	○	編み物の上手な方、大工をしていた方、それぞれプロであったが、認知がすすみ、なかなか出来なくなっているが、漁師の方でカンパチが素晴らしく手際良く、三枚におろしたり出来る方がいるので、カンパチの差し入れがあった時はその方におろしてもらっている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎日お金を数えたり、財布の中身を気にされたり、管理の出来る方は自分でダンスの中に入れていらっしやって、買い物時自分の財布から支払ったりされている方もいる。	○	金銭管理の出来ない方は預り金より買い物時は自分で支払うように支援。全く金銭管理が出来ない方は職員がお手伝いして一緒に支払っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月2回外出時、買い物、ドライブの計画を立てたり、花見等季節により、園外ドライブに行ったり本人の望む場所に行ったり外出は多い。	○	買い物、ドライブ、園行事、季節行事等喜んで参加される。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	園全体で花見に出掛けたり、霧島ヶ丘のバラ園を見に行ったり、季節を楽しんで頂いている。家族にも一緒に外出の支援を声かけして、すすめている。	○	病院受診後、外食されたり、娘や息子様が遠方から帰ってきたらと食事の誘いに来られたりして、嬉しそうに出掛けられている。「今まで『ジョイフル』に行ったことがない。あんなはれがましい所へはなかなか行きにくい。でも一度行ってみたい」と言われたので、『ジョイフル』へ行き、緊張されながらもとても喜ばれていた。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をしたり、ケアプランに手紙を書くなどあげ、字の練習に取り組んでいる。	○	家族等からのお電話等、必ず取り継いでいる。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	明るい対応を心掛けている。意見や希望を気軽に伝えたり、相談出来る様な声かけ、雰囲気作りを行っている。	○	椅子、テーブルを用意し、お茶を出している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修など身体拘束について勉強を行っている。	○	身体拘束はしていない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、利用者様と一緒に活動しながら見守りを行い、必要な方は在園確認表を30分毎に記入している。	○	施錠はしていない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの位置や様子を確認をしている。	○	在園確認表を作って確認している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の状況に応じて使えるようにしてある。	○	ナイフは危ないので、こちらで預かり、果物等はこちらで皮をむいて清潔に心掛けて手渡している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を作成し、再発防止の為に話し合いをしている。	○	事故原因検討表を作成。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月1回の施設内研修時、訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練により利用者様を安全な場所へ避難できる様にしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	出来るだけ早く気づき、ご家族へ報告し、納得出来る様説明を行ったり、相談している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しでも異変に気付いたら、上司・スタッフに報告・相談し、御家族に連絡し、一緒に連携して対応を考えている。	○	家族へすぐに報告して、意見を聞き、コミュニケーションをとっているので対応がしやすい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は名前と顔を確認し、誤薬のない様二人で確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い、医師の指示のもと定期的に薬を服薬し、便管理を行っている。	○	毎日排便チェック
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。週1回義歯の洗浄も行っている。出来ない方は職員が付き添ったり、誘導・入れ歯を取り出し洗っている。	○	毎週日曜日、全員預かり、ポリデントに浸けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時や余暇時様子観察を行っている。食事摂取量、水分補給に配慮し、記録にも取っている。	○	水分確認表を作成している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	看護マニュアルがある。早目の情報で対応している。	○	家族の同意を得て、インフルエンザ予防接種している。職員も行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限だけでなく新鮮で大丈夫かどうかチェックして使用している。まな板・ふきんの定期的消毒、卵や肉等使用した時、はし等、気をつけて使用している。	○	ハイターでまな板消毒。おしぼり使用。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るく楽しい雰囲気作りに心掛ける。四季により花等を植え、草取り等配慮して環境作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの作り物等工夫。雰囲気を出し、四季を感じていただく。	○	季節の食べ物やめずらしいものも目からの楽しみ方にも工夫する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に楽しまれている。見守りを行っている。	○	ソファ어도3ヶ所に配置し、テレビもよく見れくつろげるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節事にその時季の特徴、雰囲気を作って飾り付けたり、居室の模様替えをしたり、御家族の写真や絵画等飾ったり、ソファを設置したり、家具を置いたりしている。	○	本人が昔使っていた物等をご自宅から持って来て、昔と同じ感覚で過ごして行ける様にしたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	料理時はもちろん、便臭・尿臭等、特に気をつかい、換気に気づかっている。利用者様の状況に応じ、空調等も調整して使用している。	○	利用者様一人一人の状態を見て、細めに換気や温度調整を行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる所は自分で出来るだけやれる様付き添い、見守りを行っている。歩行時はスロープ利用やシルバーカー利用したり、トイレにも手摺等設置され、安全に出来ている。	○	トイレにもナースコールがあり、トイレトペーパーの不足等、教えて下さることもある。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	様子観察を行いながら、残存機能の維持を図っている。毎日の歩行訓練、立位訓練、余暇活動を利用し行っている。	○	その日、その日の気持ちの観察を行っている。表情を大切にしている。
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りは桜の木がたくさん植えてあり、春になるのを毎年楽しみにされている。桜の木の下でお茶を飲んだり、お弁当を食べたり環境は良い。	○	季節事に花を植えたり、小さな家庭菜園だけど、草取りや水まき等も行っで楽しめる様にしている。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)